

ダイアログの事例 ふり返り

今回はダイアログの事例としてまずは、研修などの学びの場における「ふり返り」の時間のダイアログについてご紹介させていただきます。

最後に開催したのは2012年11月。当時、毎年50～70人規模で2日間のファッション基礎講座の講師をしていました。とても大きな会場で、マイクを使いながら場を進めていきます。テーブルも島型になっていて、横は4島、奥に向かって3島で、計12個のグループが目の前に広がっています。

ある時、2日目の最後にワールドカフェスタイルでふり返りとしてのダイアログの場を設けて、2日間の学びをそれぞれでカタチにしてもらいました。その前にほんの少し、ひとりで2日間のことを内省する時間を取り、それを自由に紙に書き出してもらって、そのあとにふり返りのダイアログの時間です。

ワールドカフェというのは4人×4グループからつくれる場で、最初はグループでダイアログをし、次に4人のうちひとりだけを残してテーブルを変わりダイアログし、そして最後にまた最初のテーブルに戻ってダイアログを行います。そうすることで大人数でも短時間で情報を共有した様な、そんな場ができます。

この日のふり返りに第1ラウンドに出した問いは「この2日間で、あなたが思ったこと、感じたこと」、それをグループでダイアログしてもらいました。第2ラウンドではテーブルを移動してもらい、さらに問いを変えて「仲間に伝えたいと

思ったこと」についてダイアログ、最後に第3ラウンドではもとのテーブルに戻って「あなたが実際に行動に移すこと」についてダイアログしてもらいました。

第1ラウンドは20分、第2・第3ラウンドはそれぞれが前のラウンドでの共有するところからはじめるので25分ずつ、計70分のダイアログです。そのあとに質疑応答も含めた全体シェアの時間を10分ほど。テーブル間の移動などを含めると90分間のふり返りの時間をとりました。

そこで出てきていた言葉は、

- ・アイスブレイク楽しい（←会議のいつ挟むかがキーポイント？）
- ・気持ちを引き出すことは難しい
- ・ポストイットは有効だ！ポストイットを使おう！
- ・収束ができれば達成感UP！
- ・他のスタッフにどう伝えて行くか（××）←でも伝えていく！
- ・ファシリテーター人口を増やそう！来年の研修に！
- ・自分が本当に理解できているか不安
- ・あだ名で呼べない・・・。大人だし
- ・みんな笑顔がよかった

ほんの一例を掲載しましたが、ここには書ききれないくらいのアウトプットが各テーブルの模造紙に記されていました。

これは僕が経験した中で1番長いふり返りの時間なのですが、別にワールドカフェである必要はなく、ふり返りの時間をしっかりとること、それがダイアログを学びの場に導入するための一番簡単な方法です。

ふり返りの時間の問いを場に示して、あとは時間を計りながら見守るだけ。

多くて6人、できれば4人程度のグループをつくり、最低でひとり1分話せる時間、できれば沈黙が生まれるくらいの15～25分の長い時間、ふり返りをするための問いを投げかけたら、あとはグループにお任せして時間を計ります。可能であれば可視化するための紙を用意して。

インプットしたものをアウトプットすることはとても重要です。それを紙に書き出すだけでなく、自分の言葉として人に話すこと、そして自分の声を自分で聴くこと、それを聴いたまわりの人の反応など、やるかやらないかでは学びの質が大きく変わっていきます。

ふり返りの場の目的のひとつは、ファシリテーターや講師など、その場をつくる人からの一方通行の場にせず、学びを双方向にすることです。1(講師)対多(受講生)の構図では生まれない気づきをこの時間の中で個々の中に芽吹かせます。

これがワークショップスタイルの面白いところですね。この2日間の講座では、ファシリテーションの基礎に関するワークをたくさん行い、その都度にも短いふり返りの時間を入れてあります。それでふり返り慣れている部分もありますが、最後のワールドカフェもあつという間に時間が過ぎてしまいました。

基準はどこにあるかということ、それも重要になってきます。例えば教えたことに対して間違っただけを言ってほしくないのであれば、ふり返りの時間よりは正しさを判断するためのテストを最後に行った方がいいはずです。

実際、問いがきちんとしていれば何からでも学べますし、ふり返りのダイアログのあとのに質疑応答を兼ねて全体シェアを行うことで、より学びを深めることができます。その質問に何でも答えられる自分であればあるだけ、講師にも学びが多いです。

そういった、お互いに学び合う場にするためにも、ふり返りとしてダイアログするのはとても有効です。ただ、最後にそんな時間を確保できるのかどうか、そこが問題になるのかもしれないね。

ちなみに、今回お話ししたファシリテーション講座では、最初の問いづくりとアイスブレイク、それにふり返りの時間を先に決め、その残り時間に他のコンテンツたちをおさめるようにしました。先にそれらの時間を残してから、その間でコンテンツをどう伝えるのかそれを考えています。

例えば2時間の場であれば、最初の問いづくりやアイスブレイクに20分、そして最後のふり返りと質疑応答に20分といったカタチで、場の流れを考える時にこの2つは最初の段階で確保して、残りの80分で何をするかを考えていきます。詰め込み過ぎに気をつけながら。

もうすでにダイアログの場にふり返りをきちんと導入されている方も多いかと思いますが、もしよかったらこれを機に改めてふり返りの時間について考えてみる、そんなきっかけになるとうれしいです。

ぜひ、あなたが予定しているダイアログの場で、その場をふり返る時間について、目的や問いなど、改めて考える時間をとってみてください。

読み終えた感想や質問、実践のシェアなど、もしよろしければ、下記の URL から「みんなのダイアログ」へのご投稿をお願いします。わかることもわからないことも、またそこで一緒にダイアログしていきましょう。

みんなのダイアログ

<http://cobaken.net/webdialog/index.php?qa>